

もうかる漁業創設支援事業実証結果報告

【銚子市漁業協同組合】

実証期間：平成20年6月1日～平成23年5月31日

経営体質の強化のため4隻の底びき網漁業の協業化及び70トンから19トンに小型化した改革型漁船を導入し、生産コストの削減、活魚出荷・高鮮度出荷等漁獲物の販売・流通対策を通じて生産金額の向上を図ることにより、沖合底びき網漁業の収益性を改善するための実証事業を実施した。



実証項目

【生産に関する事項】

- ①協業化によるコストの削減
(4隻が協業化し生産組合を設立)
- ②漁船小型化による生産コストの削減
(70トン→19トン 日本人乗組員5名→3名)

【流通・販売に関する事項】

- ①漁獲物の高付加価値化
- ②漁港における品質管理の向上
- ③流通経路の新規開拓
- ④「銚子の底魚」のPR強化



実証結果

【生産に関する事項】

- ①管理部門の統合により一般管理費を節減
資材等の共同購入などによりコストを削減
- ②燃油消費量46.8%削減(70トン型比、3年平均)、
その他船舶検査費用等その他の経費の削減

【流通・販売に関する事項】

- ①ヤリイカなどの箱詰め出荷により販売単価約2割アップ
ヤリイカの加工品(沖漬け)商品開発
- ②漁協職員等の意識改革のため先進地での研修会等の開催
及び衛生管理マニュアルの作成
- ③銚子物産館との連携で東京方面の居酒屋に出荷
- ④地元イベントに積極的に参加し、「底魚」のPR活動を実施
魚箱シール(右上)、チラシ、のぼり旗等を制作、関係先に配布

収益性の改善について

上記のとおり実証項目について、一定の成果を得た。その結果、漁獲量は従前より減少したが、水揚金額は毎年1億円程度と従前と同額程度、減価償却費を除く経費は約8千万円であり、年間2千万円程度の償却前利益が得られた。なお、乗組員を2名減らしたが水揚金額が従前を維持できたことにより歩合給が増え一人当たりの所得が向上した。

また、漁船の小型化により、上記実証結果の他、操作性の向上によって従来船で漁獲が難しかったボタンエビの漁獲が可能となり、漁獲物の単価アップが図られた。更には20トン未満船となったことにより、乗組員資格の条件が緩和された。

今後、当該地域のモデルケースとして普及啓発を図っていく。